

# 日本中国学会会報

NIPPON CHŪGOKU GAKKAI

1994年(平成6年)

11月21日

第 2 号

〒113 東京都文京区湯島1-4-25 斯文会館 電話 03-3251-4606

FAX 03-3251-4853

## 詞ヲ致スコト都テ八次

—— 第四十六回学術大会閉会後に識す ——

理事長 伊藤漱平

### 一 “前夜祭”のスピーチ

本年の大会は、10月8日(土)、9日(日)の両日、お茶の水女子大学(東京)に於て開催された。

昨秋の大阪大会のあと、その所感を「詞ヲ致スコト凡ソ七次…」と題して会報第二号に寄せたのであるが、今回は標題の一部を「都テ八次」と改めて再使用した。理事会から始まって閉会式までの3日間に亘る理事長としての御挨拶が一回分増えたそのわけは、七日(金)午後3時から開催校の会議室を拝借して始めた理事会の終了後、程遠からぬ東京大学山上会館地下食堂を会場に開催されていた「現代文学研究者の集い」に馳せ参じたからである。

ここと数十年前から、中国学会の「前夜祭」と通称されるこの集会は続いており、毎度御案内を頂きながら、出席できずに過ぎた。この種の会合では、今年十周年を迎えた全国漢文教育学会がその前身の大学漢文教育研究会(昭和30年発会)の時代から、大会を金曜に設定される習いであったのが、平成元年から分離されて五月頃に開かれるようになった。また「春秋の会」が『春秋』及び三伝の研究者たちによって、大会会期中の昼休みを利用して開かれていたが、近年は中断状態のようである。新しいのでは、「中唐文学会」(会員数約80名)が五年前発足し、大会を金曜午後から夜にかけて開催されている。本年は明海大学(浦安市)を会場に開かれ、立派な大会資料集が私にも恵贈された。

このような専門分野別の集会在大会の前後に自主的にまた継続的に開かれるようになったことは、当学会が創立後五十年近くを閲し、当初からの哲学思想・語学文学の二本の柱による分科会方式も会員数の五、六倍増に応じて改善すべき時期に來ていることを物語っていよう。これは大会の発表時間(現行15分、質問時間5分)の枠をいまま少し拡げて欲しいという根強い要望なども相関連している。大会の眼目たる研究発表の在り様について、前回(3月)及び今回の学術専門委員会に於て問題提起を重ね、今後の検討課題とした所以である。

ところで「現代文学研究者の集い」に顔を出したとたん、スピーチを求められたので、「前夜祭」だけでなく明日から始まる中国学会の大会の方にも是非御出席をと優に100

名を超すと思われる参会者に呼びかけた。私のあとスピーチに立たれた丸山昇理事も同趣旨のアピールをされ、初日の近・現代文学関係のプログラムにも言及された。「都テ八次」と題したのは、実はこの席での御挨拶を算入しての話なのである。

## 二 学会消長の一バロメーター

今次大会の参加者数は646名に達した。格別数字にのみ拘泥するわけではないが、盛会であった大阪大会に比してもさらに約100名増加している。1,900名を上廻る全会員数に対するこの大会出席者数の比率は学会消長を示す一バロメーターではあろう。

もともと首都圏での開催は、立地条件からも出席者の多いのが常であるが、それでも従来は500名前後に止どまった。今回の参加者数については、会員数自体昨年より約七十名増加している。8月の号外で参加を呼びかけた。現代文学者の集いでも呼びかけた…等々手前味噌的なものをも含めて理由はいくつか挙げられるものの、なんといっても、学術大会の眼目たる研究発表の多彩な充実へ帰せられるべく、尋常なプログラム作りに徹せられた準備会と、これを援けられた学術専門委員諸氏の御尽力の賜物であろう。そして、師生相集い朋友相講習して学術研究の進展を期する学術大会の目的に共鳴され、従来以上に多くの会員が参集されたものであろう。

特記すべきは、諸外国からの賓客 — 日本の諸大学に外国人教師として招聘された諸教授、折から来日中の諸教授が、名簿以外にも飛入りで参加されていたことで、今回その数は20名を上廻るほどであった。さきに学会創立四十年を迎えた前後、会則「目的」の項にも謳う海外との学術交流を促進せんと趣旨から、『学会報』の寄贈等を実施したのであるが、今や着実に国際的な学術交流が進んでいることを実感させられた。

2日間に亘って熱心に行われた研究発表は、それぞれその道の先達であるレフェリー役の司会の下で参加者中の“同行”との討論を経たわけであるが、これがさらに練り上げられ、明年一月末締切の『学会報』第四十七集に続々投稿されて誌面を賑わすことを期待して已まない。

大会の盛況は洵に慶賀すべきことであるが、その反面、参加者数の増大は現行二部会の各研究発表会場の収容人員数、また一部会の討論に適正な構成人員数の問題を発生させずにはおかない。上に述べた分科会の増設の検討がその意味でも急がれる所以である。

ところで参加者の受けをめぐって、実は一つ問題が生じた。前記の参加者数は、当日の受けで参加費(2,000円)を納められた方々の数字(会員外の臨時参加者を含む)であるが、このほかに受けを経ない参加者が約30名あったと推定されている。察するに事前の受取人払いの出欠アンケートに出席の回答ををされなかったため、受けを素通りされたものであろうか。いずれにせよ、大会運営費の大半を参加費収入に依存しているのが実情であるから、今後さきのようなことのないよう何分の御協力をお願いしたい。

## 三 総会活性化に向う

8月の「会報」号外を通じ、学会運営への参加の一環として総会出席を呼びかけたが、昨年に比して出席者はやや減少し、約80名に止どまったのは残念であった。

今次総会は加地伸行会員を議長に選出したのち、報告事項・審議事項と進行した。それらの主要な内容は別記の通りである。

そのうち平成5年度決算及び同6年度予算の審議中に、決算書の金額の一部に齟齬を来たしていること、さらにこれは予算書の金額の一部に連動する内容であることが一会員より指摘された。審議の結果、その原因は決算書書式の不備にあるであろうと推察されたが、慎重を期して議長提案に従い、両監事の再監査を受けた上でその結果について、通信によ

る臨時総会を開催、留保された一部金額の承認の可否について諮り直すこととされた。後日両監事を煩しての再点検の結果、3月末残高に異状はなく、使途不明金等もないことが確認され、書式の不備に由来する錯誤であることが判明した。この結果に基づき、作成し直した決算書及び予算書を本会報と共にお届けし、通信による臨時総会を開催、改めて審議に俟つ運びとなった。それにつけても、事は錯誤に出でたとは言え、このような混乱を惹いた不手際の責任は、「会務を統べる」役目を負う理事長たる私に在り、この点この紙面を借りて会員各位、特に当日列席された各位に謹んでお詫び申し上げる。

翻ってこれを会員の運営参加という観点から見ると、総会の審議が有名乏実でなく、錯誤が是正されたことは、参加を呼びかけた私としては感謝に堪えぬところであり、今後とも総会がその機能と役割を果たし続けることを希ってやまぬ次第である。

次に、昨秋総会に於いて大筋が承認された創立五十年記念事業は、今次総会で平成10年10月10日を以て開催年月日と定め記念式典を挙行することとされ、別記の如く記念事業の大綱も承認された。次期の理事会の手でさらに具体化が図られることとなろう。先ず本年度内に創立当初を回顧する座談会が関係者によって開催される予定である。

また記念行事並びに記念事業の実施に必要な資金を確保するため、特別会計よりの繰り入れによる基本金(100万円)設定、さらに一般会計よりの逐年繰入れ積立金(毎年50万円)を内容とする資金計画案も承認された。

事業等の実施に当たっては、年会費の値上げも募金も行わないとの基本方針に副って前記の資金計画を樹てたので、記念事業中では最も資金を要する記念論文集が刊行された暁には、多数会員またその所属機関にお買上げ頂くことが必要となる。会員割引も行う予定であるから、その点今から御協力をお願いしておく。

これと関連していま一つお願いの儀がある。従来会費振込みの振替手数料を受取人払い、即ち学会が負担してきたが、明年度から会員各自に御負担願うこととし、理事会・評議員会の議を経て総会でも諒とされ承認を得た。会費は本来満額の5,000円を御負担頂くべきところ、納入促進の趣旨で60円を学会が負担してきた。これを会員各位に御負担願えれば年間10万円を上廻る金額が浮く勘定になる。記念事業経費の一部にも充当できるので踏み切った次第。この措置によって会費滞納が殖えるであろうと懸念する声がないではない。私はそのようなことは万あるまいと楽観しているが、各位におかれては是非この趣旨を御理解の上御協力を賜わるよう折入ってお願いする次第である。

#### 四 盛況の懇親会

総会終了後、大学食堂(号外に「生協食堂」と書いたのは誤りで、生協は経営を請け負っている)を会場に懇親会が開かれた。この方は200名を上廻る参加者があり、交歓の場として大層盛り上った。号外で参加を呼びかけた甲斐があったというものである。当夜は開催校お茶の水女子大学太田次郎学長が特に出席され、歓迎の御挨拶を賜わった。大学当局からは大会開催に当たり特段の御配慮に預っており、感謝に勝えないところである。

終りに第四十六回学術大会開催に当たり、一昨年来周到に準備を進めてこられ、有終の美を飾られた開催校お茶の水女子大学の佐藤保代表を始め準備会の各位に対し、深甚なる感謝の意を表したい。またその準備並びに大会運営に陰に陽に協力を惜しまれなかった役員各位また司会の労を執られた各位に対してもここに鳴謝の意を表したい。

明年は立命館大学が開催校をお引受け下さり、既に準備会(代表寛文生会員)も発足を見た。来秋には本年にもまして多数会員が入浴され、大会に参加されんことを期待する。

10月26日の総会における決定事項及び諸報告は次の通り。

【議決事項】

- (1) 平成5年度収支決算書については、書式の不備と齟齬があったため、議長提案（別紙参照）及び臨時理事会の議に基づき、通信による臨時総会を開催し会員から承認可否の回答を頂く方式を取ることとなりました。再度監査を受けた決算書を掲載してありますので、これについて同封の葉書（受取人払い）にてご回答下さい。
- (2) 平成6年度事業計画は承認されました。これに伴う収支予算書（案）は平成5年度決算との関係から、一部修正変更が起り得ることを確認した上で基本的に承認されました。
- (3) 日本中国学会創立五十年記念行事及び事業についての基本計画案が承認されました。
  - ① 記念行事実施の時期は、平成10年10月10日（土）を予定する。
  - ② 記念行事については、記念式典・記念講演・祝賀パーティーを計画する。
  - ③ 記念事業としては、記念論集の刊行・学会五十年史の編纂・座談会の開催・学会概要（パンフレット）の作成を予定する。
  - ④ 『日本中国学会報』第50集については記念特集とし、座談会の記録の付載・総目次執筆著名索引の付載を予定する。
  - ⑤ これらの実施に備えて、繰越金の一部を別途積み立て、特別会計（第二部）を設定する。
- (4) 郵便振替による会費振込み料の会員自己負担への変更が承認されました。
- (5) 次年度の大会開催校は、立命館大学に決定しました。10月7日（土）・8日（日）の開催予定。

【諸報告及び関連事項】

- (1) 平成6年度の選挙管理委員は、次の各氏に委嘱されました。（\*は重任）
 

（理事） \*福井 文雅  
 （評議員） \*伊藤 虎丸・\*松浦 友久  
 （一般会員） 巨勢 進・林 克・\*馬淵 昌也  
 \*山口 建治・\*山口 守                      委員長は伊藤 虎丸会員
- (2) 『学会報』第47集の編集担当校は、引き続き早稲田大学（責任者は松浦友久会員）に委嘱されました。第47集の〈学会消息〉欄の原稿を、記入責任者から早稲田大学文学部中国文学研究室（〒162 東京都新宿区戸山1-24-1）宛お送り下さい。資料は平成6年1月から12月までのものとします。  
 『学会報』第47集の〈学界展望〉執筆校は以下の通りです。
 

哲 学    東北大学文学部中国哲学研究室・代表：中嶋隆蔵会員  
 （〒980 仙台市青葉区川内）  
 文 学    広島大学文学部中国語学文学研究室・代表：藤原尚会員  
 （〒724 東広島市鏡山1-2-3）  
 語 学    大東文化大学外国語学部中国語学研究室・代表：平松圭子会員  
 （〒175 東京都板橋区高島平1-9-1）

 著書及び論文抜刷などの資料を平成7年1月末日までに上記各研究室宛お送り下さい。収載資料は平成6年1月から12月までのものとします。

〈学界展望〉につきましては、資料現物の送付とは別に、会員各自同封の用紙（二種類あり）により自己申告していただくことになっております。申告なさる方は、用紙に記入の上、同封の封筒を利用して明年1月末日までにご返送下さい。郵送費は各自ご負担願います。なお、御申告が無い場合は、収載漏れとなることがありますのでご注意下さい。また、研究論文目録として掲載不適当と思われるものは、執筆担当校の判断で割愛されることもあります。

(3) 『学会報』の掲載論文公募について

締切日 平成7年1月31日（当日消印有効）

枚数 本文・注・図版等あわせて400字詰原稿用紙55枚以内

要旨 400字詰原稿用紙5枚以内を添付する。

応募者は『日本中国学会報』巻末の〈論文執筆要領〉を参照の上、これを遵守して下さい。（原稿は必ず郵送のこと。本部持込みは受理しません。）

(4) 本年度の日本中国学会賞は、以下の会員が授賞されました。

哲学部門 該当者なし

文学部門 林 香奈会員（神戸大学大学院）

理事長より賞状と賞金（8万円）が贈られました。

(5) 第十六期日本学術会議会員候補者選挙の結果、本学会推薦で第一部哲学部門に戸川芳郎会員、語学文学部門に石川忠久会員がそれぞれ当選されました。

(6) 下記の日程で日本学術会議哲学系公開シンポジウム「自然について」が開催されます。当学会からは池田知久会員が派遣され、講演されます。奮って御参加ください。

日時 平成6年12月6日（火）午後1時30分～5時

会場 日本学術会議大会議室（東京都港区六本木7-22-34 03-3403-6291）

訃 報

会報第1号発行以後、次の5名の会員が逝去されました。

緒形 暢夫（関東） 堤 留吉（関東）

倉田 貞美（中四国） 黄 濟清（近畿）

目加田 誠（九州）

総会の席上、上記の方々と会報第1号に掲載の方々に対し、黙祷が捧げられました。

◎会費納入について

会費未納の方には振替用紙を同封致しますので、至急ご送金願います。郵政省貯金局の郵便振替業務の一部変更に伴い、新口座番号・新振替用紙が既に併用されておりますが、同封の用紙で本年度末までご利用いただけます。なお、数年にわたって未納の方は特にご注意願います。（振替：東京6-89927）

また、会費振込み料金の会員自己負担への変更が承認されたのに伴い、本年度末を以て赤色の振込み用紙の使用を終了します。来年平成7年度4月以降の振込みは、青色の用紙を来年度「会報」第1号に同封致します。必ず最新の振込み用紙にて納入してください。

◎『学会報』送付停止について

会費未納が2年に達した方には『学会報』を送付致しません。会費納入が確認され次第、

配布いたします。また、納入の際には、振込用紙裏面に未送付の『学会報』の号数をご記載ください。

◎新入会の申し込みについて

次回の新入会員の審査は平成7年度第一回理事回（5月開催）に於いて行われます。入会申込書は平成7年4月発行の「会報」第一号に付載します。

◎住所変更について

住所・所属機関等の変更は速やかにご通知下さい。

下記の住所不明者について、御存知の方があれば、お手数でも御一報願います。

猪又稔・磯貝信二・神鷹徳治・橘純信・玉利房江・丹野亮造・矢萩哲文・横内哲夫

## 平成6年度文部省科学研究費採択状況一覧

○総合研究（A）

類書の総合的研究（240万円）	加地伸行（大阪大学）
中唐文学の総合的研究（320万円）	松本肇（筑波大学）
転形期における中国知識人（390万円）	小谷一郎（埼玉大学）
中国の方言と地域文化（300万円）	平田昌司（京都大学）

○一般研究（B）

中国古代中世における女性史関係資料についての歴史的・思想的・研究（100万円）	下見隆雄（広島大学）
ジェンダーの枠組による中国近現代史再検討のための基礎的研究（520万円）	宮尾正樹（御茶の水女子大学）

○一般研究（B）（継続）

新出土資料による中国古代医学の研究－張家山出土漢簡を中心に－（60万円）	坂出祥伸（関西大学）
--------------------------------------	------------

○一般研究（C）

13世紀～17世紀間の西欧哲学者における東洋思想・宗教の受容と解釈（230万円）	堀池信夫（筑波大学）
近世江南鄉村社会における宝卷の役割をめぐる研究（130万円）	磯部彰（富山大学）
「童謡」と熒惑星伝説の基礎的研究－後漢以後における讖緯説の展開（100万円）	串田久治（愛媛大学）
李叔同（弘一大師）の思想－馬一浮の思想との関連および豊子愷の芸術への影響を中心に（90万円）	坂元ひろ子（東京都立大学）
朝鮮諺解本による中国近世語彙の研究（60万円）	大塚秀明（筑波大学）
中国における「物語」文学の盛衰とそのモチーフについて（80万円）	大塚秀高（埼玉大学）
秦漢期における漢字の変容（40万円）	小南一郎（京都大学）
現代中国における「諷刺芸術」の研究（110万円）	弓削俊洋（愛媛大学）
戯曲資料から見た金瓶梅の作者とその描かれた時代についての研究（110万円）	荒木猛（長崎大学）
明清官話音韻史の基礎的研究（70万円）	岩田憲幸（龍谷大学）

中国知識人の日・欧・米への留学体験の比較研究（１００万円） 藤井省三（東京大学）

○一般研究（Ｃ）（継続）

嵇康の＜論＞における「言語」の研究（６０万円） 森秀樹（立教大学）

魏晋南北朝期の地理書思想史的研究－「華陽国志」等の地方志を中心として－（５０万円） 薄井俊二（埼玉大学）

宋代の説話と伝承の研究（６０万円） 岡本不二男（岡山大学）

日本残存資料による『全唐詩』改訂の試み（７０万円） 斎藤茂（大阪市立大学）

佐賀鍋島諸藩における漢籍と漢学の研究－藩校・聖堂の盛衰と漢籍の集散を中心として－（６０万円） 高山節也（二松学舎大学）

○奨励研究（Ａ）

唐代における暦制定にまつわる諸問題の研究（９０万円） 長谷部英一（東京大学）

清代初期政治思想の多角的研究－朱子学を中心として－（９０万円） 伊東貴之（東京大学）

明清時代の礼学とその実践にかんする地域性の研究（１１０万円） 小島毅（徳島大学）

「国統区」に於ける演劇運動に関する基礎的研究（９０万円） 牧陽一（埼玉大学）

歴史的漢語方言研究を基礎とした日本語資料および日本漢字音の研究（９０万円） 木津祐子（同志社女子大学）

唐代における文学と絵画芸術の交渉に関する研究（１２０万円） 浅見洋二（山口大学）

『牡丹亭還魂記』上演の実態に関する基礎的研究（７０万円） 根ヶ山徹（広島女子大学）

明治末東京における周作人と日本文学の出会いとその意義について（１００万円） 伊藤徳也（国学院大学）

中国小説の文体論的研究（９０万円） 中里見敬（山形大学）

○奨励研究（Ｂ）

中国古代における五行思想の変遷－顧頡剛著「五徳終始説下的政治和歴史」を通して（１９万円） 三浦吉明（東京新宿高）

○国際学術研究〔代表者〕

東アジアにおける情報伝達と人間移動－南北の比較研究（６３０万円） 中嶋幹起（東京外国語大学）

中国文化における道教の位置と現状についての総合的調査（４５０万円） 蜂屋邦夫（東京大学）

中国語図説生活語彙集編纂の研究（２８０万円） 興水優（東京外国語大学）

○研究成果公開促進費

日本中国學會報（５１万円） 『儒教社会と母性』－母性の威力の観点でみる漢魏晋中国女性史（１２０万円） 下見隆雄（広島大学）

清代考据学思想史的研究（２５０万円） 濱口富士雄（群馬県立女子大学）

後漢国家の支配と儒教（１４０万円） 渡邊義浩（北海道教育大学）

韓愈と柳宗元－唐代古文研究序説－（１１０万円） 小野四平（宮城教育大学）

唐詩口語の研究（１４０万円） 塩見邦彦（島根大学）

『西遊記』受容史の研究（３３０万円） 磯部彰（富山大学）